

南の風 534

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

恩塚氏が考える『ゲームモデル』の続きです。

(2) 最適解とゲーム状況

最適解は、ゲーム状況から判断することが重要です。ゲーム状況は別の言い方をすれば文脈であり、533号までに書いた、①4局面の原則、②3ゾーンの原則、③5段階の原則から導かれる現在地における文脈（ゲーム状況）に、有利、不利、対等からなる「形勢」を掛け合わせて決定していきます。信号に例えて、有利（青）、不利（赤）、対等（黄）とイメージすると分かりやすいでしょう。

目的を達成するために、そのときの状況と形勢をどう判断（原則の採用）すれば最適解として合理的なプレーが選べるかが重要になります。

我々コーチは選手に、「今、オフェンス/ディフェンスの土の段階で、有利か不利かによって、どの原則を使うのか」をきちんと整理して選手に伝えることが重要です。選手も「自分は今日の段階のどこにいて、信号が青だからこうしました」といったコメントが言えるようになったら「何をしたらいいんだろう」というようなオタオタするシーンがなくなります。コーチも、選手がやる気があるのかないのかわからないようなプレーを見ると「もっと頑張ればいいのに」とストレスが溜まるのですが、選手が自立してくると、そのようなこともなくなるのではないかと思います。

①ゲーム状況における現在地

ゲーム状況における現在地とは、ゲームの流れの中で、選手がおかれている状況のことです。現在地が分からなければ次に進む方向が決められません。コート上のあらゆる状況に対応し、すばやく、意図あるプレーを、チームで力を合わせて発揮できるようになることを目指してください。その目標を達成するためには、まず自分たちの現在地を知る必要があります。お互いに自分の現在地が分からなければ、「いつ攻めたらいいのか」「こういうときどうしたらいいのか」といった判断ができず、選手どうしても何をどうしたらいいのかわからないはずで、今はどの局面の、どのゾーンにいて、どの段階なのか。その現在地が認識できることで、その現在地における戦い方を絞り込むことができるのです。

②ゲーム状況としての文脈

文脈とは、文章中の文と文の論理的なつながり具合のことを指しますが、ここでは、ゲームの流れ、状況の前後関係のことを指します。またそのゲームの流れを読む力を『ゲーム観』と言います。ゲーム観のある選手は、ゲームの文脈が読めており、自分で判断ができ、いつも簡単にプレーしているように見えます。言い換えればセンスがあり、自立しているということです。この文脈を理解したうえで、それぞれの原則に沿ってプレーを選択できたときに「考えている」ということになります。つまりコーチのいう「考えてプレーをきなさい」は「文脈にあった最適解を導きだせるように考えてプレーきなさい」ということなのです。

③ゲーム状況における形勢（有利、不利、対等）

次号で詳しく触れます